天草地区高段者剣道講習会開かる

以前からの懸案事項であった標記の講習会が十月九日(月)、体育の日に天草市総合武道館剣道場で開催されました。この講習会の目的は、高段位を受審する会員、また自分の剣道のレベルアップを図る会員に対し、八段講師から直接指導助言をいただき、また実技指導で鍛えていただこうというものです。講師は宇城市の西山弘範士、熊本市の尾方正照教士、八代市の右田幸次郎教士の三名にお願いしました。地元講師として木下文男、益田克法の二人の七段教士が指導補助をおこないました。

まずは尾方先生の剣道講話。それぞれ身にしみるお話をいただいて決意を新たにしました。その後日本剣道形の講習に移りました。尾方、右田両講師の模範演武を織り交ぜながら全員が太刀七本、小太刀三本の稽古に打ち込みました。高段位の会員といえども剣道形の理合の理解は十分とはいえず、今回の稽古でかなり深いところを理解できたのではないでしょうか。また、指導のなかで強調された「形は稽古のごとく、稽古は形のごとく」という意味を心に刻んで今後の形稽古への意欲を新たにした会員も多かったようです。

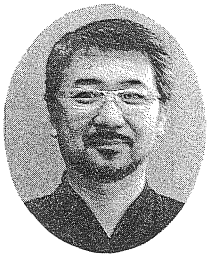
なお、六段に合格された会員は昇級審査、一級審査の審査員を務めることになりますが、特に一級審査では三本の形審査をしなければならないので、形の理解はもちろん自らの形演武も指導者たるにふさわしいものでなければなりません。益々の精進を期待します。

昼食休憩のあと十五分ほど切り返し、打ち込みで体をならして、いよいよ模擬審査になりました。四・五段受審査の部、六段受審者の部、七段受審査の部、八段受審者の四部に分けて行いました。一組終了ごとに三人の講師から有益な指導助言をいただきました。かなり厳しい指導を受けた会員が多く、改めて自らの剣道の目指す方向が得られたのではないでしょうか。

最後に指導稽古に移り、全員とまではいきませんでしたが、それぞれが三名の八段に懸かっていきました。特に右田先生の稽古を天草で拝見するのは初めてで、往年の全日本選手権者に懸かる経験が得られたのは幸いでした。尾方先生の逃げようもない怒濤の攻め、西山先生の半ば楽しむような老練の技は相変わらず健在で、久しぶりに良い看取り稽古ができました。この経験を生かし多くの会員が見事昇段を果たし、あるいはまた一つ上の境地の剣道に移行されますことを期待いたします。

昇段審査合格者のことば

野﨑　純一



平成十八年八月の福岡での昇段審査において六段に昇段することができました。

私は中学生になってから剣道をはじめ、今まで剣道を続けることができました。これまで剣道を指導してくださった諸先生方、剣道同士の皆様にこの場をお借りしまして心より感謝と御礼を申し上げます。

六段の審査を志したのは一昨年のことでした。少しずつ稽古を始めましたが、仕事の都合上時間を作るのがなかなか難しかったです。稽古をできなければできないほど、剣道を稽古をしたくなる日々が続きました。先生方から注意されること、自分の構え、剣道の心構え等を稽古ができないとき自分の家でも、少年剣道の時間にも思いながら日々過ごしていましたが、なかなか先生方から言われる打ち、「逃げない、よけない、下がらない」といった稽古はできませんでした。

気持ち的に変われたのは、熊本の山田先生が来られた時の基本稽古、またその後の懇親会での構え、左手の位置、左足のひかがみ、それに心構えについての話を聞いてからでした。それまでは、常に攻め、攻めて打つことじゃないと駄目だと思っていました。懸待一致の中の懸かる方ばかりでした。しかし、その時に言われたのは、まず自分の守りを固める、そしたら怖くなくなり、自信を持って攻めていける、というようなことを聞いたとき、ああ、そこなんだなと思いました。その気持ちをもって稽古すると、相手がよく見えたり気持ちにゆとりができ、落ち着きがもてるようになってきたように思います。

懸待一致の懸かる方ばかりではなくて、攻めて相手を観る待ちができるようになったと思います。これからもできる限り時間を作って皆さんとの稽古と少年剣道の普及にと微力ながら頑張りますので、今後ともご指導よろしくお願いします。

平成18年度　称号・段位審査合格者

本年度は次の方々が合格されました。おめでとうございます。今後益々のご精進を期待します。

剣道教士	（東京・11月30日）	杉本　重郎
剣道錬士	（京都・５月30日）	岡山　尚智
剣道７段	（東京・11月28日）	後藤　孝文
剣道６段	（福岡・８月27日）	野崎　純一　古川　龍司　松本　浩
	（愛知・11月19日）	金子　十郎
剣道４段	（熊本武道館・12月10日）	大久保慎介
	（玉東町体育館・８月27日）	富田慎太郎
剣道２段	（本渡・８月６日）	山田　良一
	（本渡・11月５日）	藤ノ木隆洋　園田　俊光
剣道初段	（本渡・８月６日）	半田　善晴
	（本渡・11月５日）	松永　一志　岩崎　次男

編集後記

以前、菊池での大会の折りにそこの連盟が発行する剣道連盟便りを何度か見て、その趣旨にいたく感動し、「天草剣道連盟便り(仮称)を発行しましょう」と提案したのは確かに私だが、まさか編集委員長になるとは夢にも思っていなかった（常任理事の役割分担の会議に欠席したのがまずかった…）。

最初は、一月初めにでも発行に漕ぎ着けるつもりだったが紆余曲折と私の怠慢があり、本日にずれ込んでしまった。第一号ということで全くの試作号。載せなければならない内容はまだまだある。今後紙面の充実のために会員各位の投稿とご叱責をお願いして今回は御免被る。連盟の目指す姿について会員の皆様の忌憚のないご意見、ご批判、ご提言、それに丁々発止の積極的な稽古をお願いしたい。

今回は、県連を真似て「剣道あまくさ」としたがこれはあくまでも仮称。良い名前があればお寄せください。（M・K）